

しいのき



河竹黙阿弥作「白浪五人男」 豊原国周画

役者絵最後の人 くにちか 国周

名誉館長 三隅治雄

「最後の人」と呼ばれた芸術家はどの時代にもいます。当人は気付かぬ後世の評価で、そういう人ほど激動変転の時代におのが美学を持して譲らず、それが次代に伝わることを信じて職に心血を注ぎました。幕末から明治への歌舞伎界で、江戸歌舞伎最後の狂言作者と評された河竹黙阿弥もその一人です。伝来の劇術・演出法を駆使し、下座音楽に乗せての七五調美文のせりふで市井の民の哀歓をみごとに描いて人気を得ましたが、西洋の思潮・風俗の怒涛の進入のなかで苦闘し、江戸演劇の大問屋と讃えられながら孤高のラストランナーとなりました。豊原国周は、同時代に芝居絵の巨匠と謳われた浮世絵師です。役者の顔をアップに描く大首絵が得意で、それをワイドにした三枚続きに一人の役者の半身を描いた絵が明治期評判を得ましたが、折しも、黙阿弥苦闘の歌舞伎動乱の期に遭遇して、その動乱の刻々を演じた役者の姿を絵にしました。そして、彼もまた、舶来の寵児写真機の普及に押されて衰退する浮世絵の最後の名手となったのです。

文化財よもやま話

お囃子

笛の音がどこからともなく聞こえて、祭りの季節を感じたことはありませんか。「お囃子」というと、祭りの時に、山車の上や神楽殿で演奏される祭囃子を真っ先に思い浮かべられることでしょう。でもお囃子は祭囃子だけではありません。祭囃子は神楽のお囃子、田楽のお囃子、能楽のお囃子など数あるお囃子の中のひとつなのです。

お囃子は、芸能に付随して、それらの効果を高めるために演奏される音楽をいいます。古くは手拍子などで賑やかに囃されていたのでしょうか。楽器を用いるようになったのは、その後のことと考えられています。

中野区鷺宮には鷺宮囃子が伝えられています。鷺宮囃子は、江戸時代中期の享保年間(1716~36)、金町の香取神社の神職、能勢環の勧めで、葛西の青年たちによって始められ、江戸神田祭をきっかけにして広まった祭囃子に端を発しています。鷺宮には遅くとも江戸時代後期には伝わっていたと思われます。

囃子は大太鼓・笛・鉦と2つの締太鼓の5人で構成されています。囃子はゆったりとしたテンポで打ち込まれる締太鼓から始まり、曲目は「屋台」「鎌倉」「四丁目」「屋台」と続いてゆきます。曲はそれぞれに表情があり、「鎌倉」では笛がその音色を静かに響かせ、また「四丁目」では、笛と太鼓が掛け合いながら、場を一気に盛りたてます。「四丁目」には「玉入れ」と呼ばれる部分が含まれていますが、これには即興的な要素があり、奏者の力量と感性で、それぞれ独自の旋律を作り上げていくのだそうです。ここでは奏者と観客との間の駆け引きも行われ、両者ともに最も緊張し、興奮する場面となっており、ある奏者は「これがあるから何年やっても飽きないし、やめられないんだ」と語っておられました。

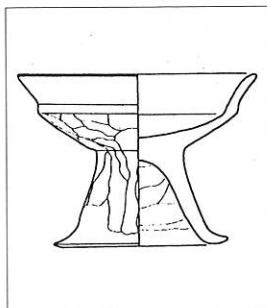
鷺宮囃子は8月27、28日の鷺宮八幡神社の例大祭に奉奏される他、2月に福蔵院で行われる節分会、区民祭りなどで演奏されています。

大地に眠る歴史

使い道で名が変わる

考古学ではそれぞれの遺物に専門的な呼称をつけています。例えば、坏(つき=現在の飯茶碗)甕(かめ=現在の鍋・炊飯器)甗(こしき=現在のセイロ)といった具合です。

その中の一つに高坏(たかつき)という土器があります、図に示しました通り、飯茶碗の役割をする坏に脚をつけて高くしたものです。使い道は食物を盛る器で、日本では卑弥呼の時代、つまり弥生時代から使われていた形です。日々の食事のうち美味しいもの、皆で食べるものを盛っていたのでしょうか。ところが、この食器であるはずの高坏も使い方が変わると名称も変わります。今年4月野方三丁目の北原遺跡で古墳時代の竈穴住居跡が調査されました。この住居跡には壁の一边にカマドが作り付けられていました。かまどの中の土を取り除いていくと、カマドを作っている白い粘土部分と、薪(まき)をくべるところの真ん中に、写真のように高坏が脚を上にしてさかさまに



発見されたのです。これは炎を浴びて表面はただれていました。明らかに食器として使われていたのではないことがわかります。では、いったい、カマドの中で何に使っていたのでしょうか。正解は「支脚」です。カマドには水を入れた甕(かめ)を真ん中に置きますが、炎の当たりがよいように、なるべく高い位置にしなければなりません。そこで支えるものとして、高坏が使われたのです。ここで、高坏は名を変えて「支脚」に化けるのです。

皆さんの身のまわりにも、このように名を変える道具があるかもしれません。探してみるのも一興です。

なるへそ

資料館には、年間を通して3000人ほどの小学生（主に、3年と6年生が社会科の学習のため）が来館します。

“学び方”をふくらませ“学ぶ力”をのばしてほしい。そのためは、本物を見て感動する・疑問を持ち自分で調べることが大切と、子供達に話しております。また、いろいろな資料館や博物館などを進んで利用するように伝えています。つまり体験学習のすすめです。

“なるへそ”は、その話のなかで使っている見学のための合言葉です。新しく造った言葉ですが、大人にも通じそうなのでお知らせしましょう。

私たちは、見学しているときに、「なるほど」とか「へえ」という言葉を口にするものが多いものです。その時の心のうごきを考えてみませんか。

「なるほど」は予備知識をもって見学したときの言葉。つまり合点・納得といった心のはたらきがあるのでしょうか。「へえ」は、新しいものにふれた驚きや感動の表れではないでしょうか。

「なるほど」「へえ」をまとめれば、好奇心の高

まりと考えてもいいでしょう。好奇心こそ「学び心」をふくらませる源です。

「そ」は、相談の「そ」をとりました。ふくらんだ好奇心をそのままにしないで、さらに深めたり、まとめたりする「学ぶ力」が必要です。そのためには、資料や人に相談すること（調べる）が大切です。

「る」は、ルール「る」です。見学のマナーや文化財を大切にすることを高めたいので合言葉の中に入れました。

以上のような意味をこめた“なるへそ”というキーワードはいかがですか。ご理解いただけましたらご活用ください。

こんにちは！ぼくレキちゃん
わたしはミンちゃんです。
資料館のマスコットだよ。
“なるへそ”のところで
見学してね。



寄贈資料・ア・ラカルト

「寄贈品から歴史発見」



平成元年に開設された当館も、その前身である中野区史料室時代を含めると、34年余の実績を誇り、かなりの資料を収蔵している。

当地に開設以来、利用度が高く、又寄贈申込みも多く、600㎡の収蔵庫もすでに手狭な感じ、忽体ないことだが、寄贈品の選別をさせていただいている状況である。

このような中で、何に使われたか判らないこの一品、戦時中の軍事教練に使われた木銃を短くしたような「紫檀」材の長さ40cm程のもの、誰れも

判らず、来館者の知恵を借りようと館内展示で呼びかけたが判らない。ついに再びお蔵入り。

昨年7月、個人旅行で長野の小林一茶記念資料館に行ったところ、この一品が展示してあり、「頰杖」と明記されている。早速学芸員氏を尋ねると小林一茶が用いていたもので、①発句中に頰杖をつくときに使った。②講義中の指示棒、③護身用と伝えられているという。

それでは何か裏付けにと探したところ、『俳人一茶』（宮沢義喜ら編 明治30年、三松堂刊）に頰杖を手にした一茶の肖像画が見つかった。

これにより、寄贈者の先祖が、俳句を嗜んでいたこと。大正13年、江古田一丁目に滝沢公雄宗匠（静会）等と芭蕉堂という草庵を建て、近隣の方々と句会を催していたこと。蓮華寺境内に芭蕉翁碑を建立したことなどが判り、地域の歴史を発掘することができた。

皆様から頂戴した資料、大切に保管し、多くの方々に見ていただくよう努めています。なおこの頰杖は、俳句資料と共に展示しています。

事業報告

各種事業経過

1996年7月～9月

事業名	内 容	期 間
企画展	館蔵品展「うつりゆく四季と暮らしー農村の昔ー」	～8/31
歴史講座	考古学でみる関東謎の中世史	
	「悲運の城八王子城」 講師 新藤康夫氏(八王子市教育委員会主査)	7/6
	「大石信濃守とその居館」 講師 内野正氏(東京都埋蔵文化財センター)	7/13
	「都心の中世遺跡群」 講師 荒川正夫氏(早大本庄考古資料館)	7/20
	「地下式墳の謎(東伏見の例から)」 講師 小川貴司氏(早大文化財整理室)	7/27
	「中野の中世遺跡とその意義」 講師 比田井克仁氏(中野区教育委員会学芸員)	8/3
文化財調査	鷺宮地区民俗調査 調査報告書刊行作業	継続中
	新井・上高田地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財調査	北原遺跡(野方3丁目) 調査報告書刊行作業	継続中
	御嶽遺跡(江古田1丁目) 第二次発掘調査	継続中
	江古田四丁目民有地立会調査	7/30
	江古田一丁目民有地立会調査	7/31
	松が丘一丁目民有地立会調査	8/1
	旧国立中野病院跡地宿舍部分調査	8/1～
	大和町四丁目民有地立会調査	8/9
	白鷺二丁目民有地確認調査	8/10
	江原町一丁目民有地確認調査	8/21
	本町五丁目民有地立会調査	9/3
その他	学芸員実習: 6大学7人	7/30～8/11
	郷土学習相談室	8/20～23

寄贈資料一覧

1995年9月～1996年1月
敬称略・受入順

資料名	点数	氏 名
五月人形	一式	矢島 貞雄
タイヤ型パン焼き機 他	4	中村 良雄
熊手	1	佐久間 寛
前掛 他	2	萩原 恒雄
押絵羽子板	2	田中荘太郎
鷺宮小学校百周年記念誌	1	松原 基子
電気笠 他	8	露無 健治
凧	1	若井 良子
年賀状	13	鍋島 保孝

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

入館状況

1996年6月～8月(延76日間) (人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
7511	148	74	7733



▲歴史講座最終回

発行年月日 1996年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 8 中教社第5号)